

館蔵品展：渡瀬コレクション展

熊野古道なかへち美術館

会期 9月23日(金・祝)～10月16日(日)

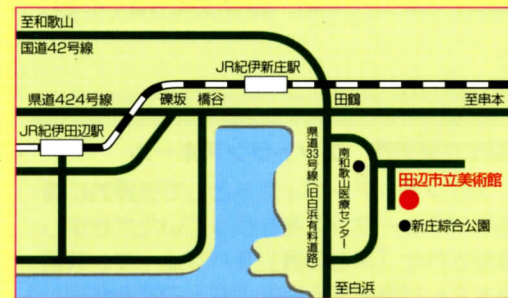
渡瀬凌雲と渡瀬家は、遠く明治の時代に一家があとにした郷土、紀州熊野に帰ることを願いながら今日まで来たといわれています。ふるさとへの思いや関心の深さは、凌雲自身の作品に熊野を題材にしたものが多いということだけでなく、熊野に繋がる画家たちの珍しい作品や貴重な資料を蒐集していたことから知ることが出来ます。

本展では、凌雲と遺族が大事にしてきたコレクションから、野呂介石の遺印をはじめ、桑山玉洲、恩師である福田静處(把栗・古道人)、内藤湖南、伊藤蘭嶋などの作品を紹介します。

マニアックで、軽やかなお楽しみもある館蔵品展です。

利用案内

田辺市立美術館



JR紀伊田辺駅から明光バス「新庄病院前」下車、徒歩5分。

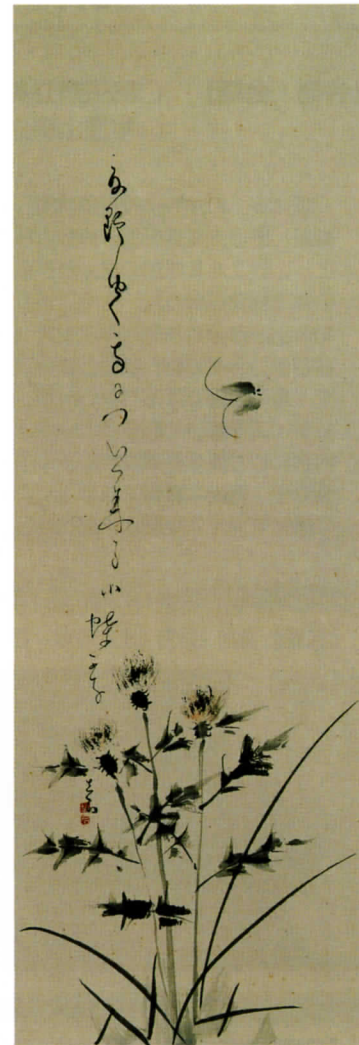
〒646-0015
和歌山県田辺市たきない町24-43
TEL.0739-24-3770
FAX.0739-24-3771

田辺市立美術館分館
熊野古道なかへち美術館



JR紀伊田辺駅から龍神バス「なかへち美術館」下車。

〒646-1402
和歌山県田辺市中辺路町近露892
TEL.0739-65-0390
FAX.0739-65-0393



福田静處 せいしよ 《夏野》
個人蔵(熊野古道なかへち美術館寄託)

美術館あれこれ① 鑑賞について

作品の鑑賞はどこまでも個人的な行為で、誰かが成り代わってできるというものではありません。つまり自分の目で作品が発するものを受けとめるよりないということです。ではその力はどのようにして培われていくのでしょうか。一つに経験の蓄積によることは他のこととも共通するに思えます。おそらく数多くの作品に接していく中でその人なりの鑑賞のコツ、ツボのようなものを身につけていくのだと思います。加えて美術作品の鑑賞を楽しんでいる人の多くから共通して聞かれるのは作品をよく見ることはもちろんですが、それだけでなく、作品についての情報やそれを生み出した作家、時代背景、芸術という人間の行為の歴史や意識等々にまでも関心を向けて作品に接していることです。これは作品を見る視点をできるだけ多くもつことも言えるでしょう。作品を一つの方向からだけ見るのではなく、様々な方向から見るためには、自分以外の人が同じ作品をどのように見ているのかを知ることが必要です。文献を読むことも重要なことですが、同じ作品を見た身近な人と感想を交換するのにも有意義なことですし、これも鑑賞の楽しみの一つかも知れません。作品の鑑賞を通じて自分の視点が広がることは他のことにも有効に思いますが、いかがでしょうか。美術館が作品と鑑賞する人、鑑賞する人どうしの交流の場になることを願っています。

(学芸員 三谷 渉)

編集後記

今回から企画・編集を担当することになりましたので、日常の美術館の表情をお伝えしたいと思い「美術館あれこれ」という新しいコーナーも設けました。御題と執筆者は編集担当の独断で決めます。これからもよろしくお願ひします。(本館 Y. M.)

田辺市立美術館NEWS

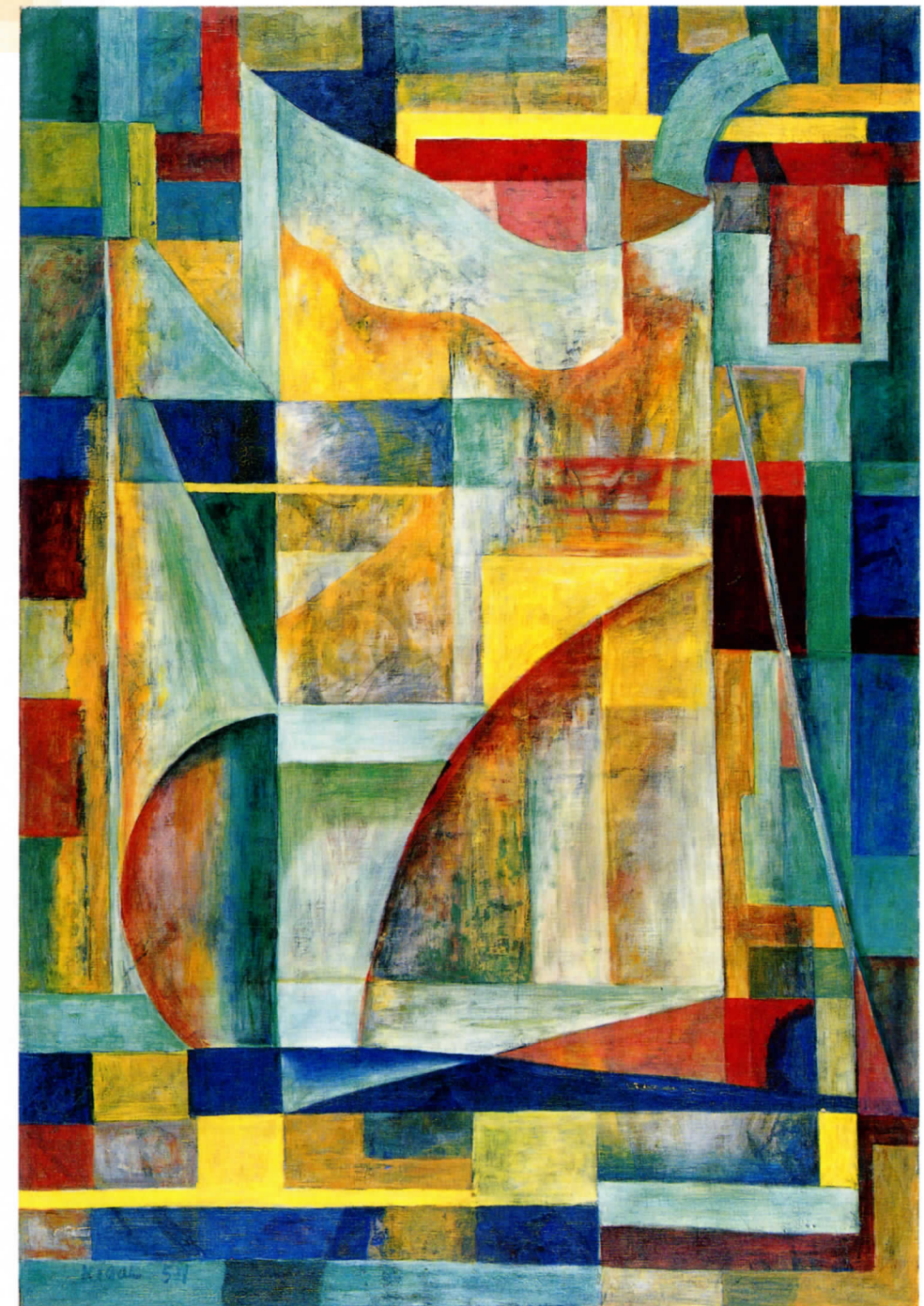
ORANGE Vol.2

発行年月日: 平成17年10月1日

編集・発行: 田辺市立美術館
熊野古道なかへち美術館

ORANGE

田辺市立美術館NEWS
Vol.2



川口軌外 《港》 1957 (昭和32) 年

田辺市立美術館蔵

展覧会紹介

田辺市立美術館

- ◆ 小企画展：川口軌外の作品を中心に (特別協力：和歌山県立近代美術館)
9月17日(土)～11月27日(日) 展示室3・4・5

川口軌外(1892～1966)は1920年代にフランスに渡って、フォービズム、キュビズム、シュールレアリスム等、当時の新しい絵画表現を吸収して帰国し、独特の作風で近代日本の洋画界に大きな足跡を残した画家です。
帰国後も73歳で亡くなるまで様々なスタイルの表現の試みを止めることのなかった川口軌外の画業を当館と特別協力をいただいた和歌山県立近代美術館の所蔵品により振り返ります。

- ◆ 特集展示：稗田一穂
9月17日(土)～11月27日(日) 展示室1・2

上記小企画展と同じ期間、展示室1・2では新しい日本画の表現を一貫して追求してきた稗田一穂(1920～)の作品の特集展示を行っています。

- ◆ 館藏品展：さまざまな技法・手法
12月10日(土)～1月29日(日)

文人画に見られる様々な描き方や表現方法を、その技法・手法に分けて紹介します。



桑山玉州《雪山唸客図》
〔「さまざまな技法・手法」展〕

田辺市立美術館分館 熊野古道なかへち美術館

- ◆ 館藏品展：渡瀬コレクション展
9月23日(金)～10月16日(日)

内容については、裏表紙を参照。

- ◆ 館藏品展：海と山の花展 — 雑賀清子作品より —
11月3日(木)～12月11日(日)

「対象物を点描で表現する時、点が連なって線となり、集まって平面となり、点と空間との微妙な割合で質感まで出せる楽しみを味わうことが出来る。と、同時に、小さい一つの点が重要な一点であることを再確認する。『お前も地球上の一つの点なんだよ』と、自分に語りかけながらペンを動かしている。」
(雑賀清子、点描作品についての言葉から)

雑賀清子の目を通して再現される瑞々しい草花たち。海と山に恵まれた紀州・熊野の小さな自然を、水彩と点描作品により紹介します。



雑賀清子《まつぼっくり》

- ◆ 館藏品展：野長瀬晩花展
1月6日(金)～2月19日(日)

その容姿、その言動、勿論そのユニークな絵。なんだか印象に残る華のあるひと—晩花—の魅力、作品と資料で紹介します。

晩花は昭和5年から17年までの間に6回、当時の満州方面へスケッチ旅行に出かけています。この「虹と羊飼いは昭和初期の中国(熱河)農村風景を描いたものですが、一息ついているところは、年代にかかわらず晩花の作品にはよくある画題でした。当時の絵の仲間のことばにはこんなのがあります。「中国とロシアの国境線で花を描いてくるような人だからね・・・。」

晩花らしい作品の数々をお楽しみ下さい。



野長瀬晩花《虹と羊飼いは》

表紙作品紹介

川口軌外《港》1957(昭和32)年 田辺市立美術館蔵

1950年、疎開先から東京に戻った川口軌外は国際展などで紹介される同時代の世界の絵画に刺激を受けて、意欲的に新しい表現の開拓に取り組む。モチーフを高度に抽象化して画面に再構成するスタイルは特にフランスの抽象芸術に敏感に反応したものでしょう。製油所のある港の風景に着想を得たという本作では、幾何学的な形体を統合する構成にそれぞれの形体と色彩の呼応があいまって、画面に快いリズムが伴っている。対象のイメージを残しながら、近代的な感性と思考で画面を構成する本作のような制作が戦後の川口の個性的な作風を形成した。
(学芸員 三谷 渉)

REPORT「夏休み わかやま美術探偵団」展から



- 【会場・会期】 ○田辺市立美術館 7月2日(土)～9月4日(日)
○和歌山県立近代美術館・熊野古道なかへち美術館
7月16日(土)～9月4日(日)

「夏休み わかやま美術探偵団」展は、《紀伊山地の霊場と参詣道》の世界遺産登録一周年を記念して、和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館の3館が共同で行った企画展です。展覧会のテーマを「美術家たちの旅」とし、約200年前の文人画から近・現代作家の作品まで、3つの美術館のコレクションを中心に約200点の作品を11の章で紹介しました。

和歌山出身の代表的な作家4人(保田龍門・原勝四郎・川口軌外・浜口陽三)の作品を各館で互いに巡回させながら紹介し、なおかつ各々の館の特色となっているコレクションを同時に展示・紹介するという、当館の展覧会としては極めて異質なスタイルの企画ではありましたが、展覧会名にも掲げているようにそれぞれのコーナー毎にリーフレットを設置、中に記されたクイズを解いてもらうという、探偵仕立ての企画を用意したり、関連企画やワークショップを行うなど、盛りだくさんの内容にして夏休み期間中に多くの子供たちに楽しんでもらえるような展覧会を目指しました。

会期中、相当な猛暑でもあったことから、来館者の出足は例年よりも鈍い傾向ではあったものの、訪れた方たちはそれぞれの感覚でクイズや展示作品を楽しんでいただいていたようでした。

鈴木昭男氏パフォーマンス 田辺・音のたどり

【日時】8月13日(土) 16:00～(15:30開場) 【場所】田辺市立美術館 エントランスホール



← 岩笛で登場の鈴木昭男さん

本展覧会の関連企画として、サウンド・アーティストとして世界的に著名な鈴木昭男さんを招いて音のパフォーマンスを行っていただきました。当日は、和歌山市内で録音された「まちの音」をパフォーマンス前に会場で流し、自然の音と鈴木さんが演奏する楽器の音との妙を参加した皆さんに体感していただきました。

鈴木昭男氏パフォーマンス なかへち・音のたどり

【日時】8月21日(土) 18:30～ 【場所】熊野古道なかへち美術館 交流スペース



← アナラポス演奏準備

田辺会場でのパフォーマンスの後、翌週の日曜日には熊野古道なかへち美術館でも鈴木さんの音のパフォーマンスを開催いたしました。あいにくの悪天候にもかかわらず、各地から大勢の方々が美術館を訪れ、鈴木さんの演奏を楽しんで行かれました。

ワークショップ ためしてみよう メゾチント

【日時】8月14日(日)、8月20日(土)、8月28日(日) 14:00～

【場所】田辺市立美術館 エントランスホール



← 銅版画原版作成風景

本展覧会で紹介した、カラーメゾチント(銅版画の技法のひとつ)で世界的に有名な浜口陽三の作品展示にあわせて、海南市在住の版画家、橋爪玲子さんを講師に招いて、メゾチント技法による銅版画の原版を作成するワークショップを行いました。